# 現代のことば

さじょ。シャビジュンスパンだ書館。酒と癖草と俳句とうどんをこよなく愛し、目はいつも潤んでいて、声は高くスムーズだ。図書委の職員、草野球チームの外野の守り手でもある。彼は懸命の笑顔で有権者の空き家訪問を繰り返し、「戦争と刻学をそなえた図書館」を掲げる市議会議員選挙に立候補した。

大月優さんが亡くなりました。まだ六十代の若さでした。あの日、「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

ベスト一年。まだ度々も電話がかかってきそうな気がする。

仕事で疲れ果てた夜、ふと思い出すのは、大月さんの笑顔。

「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

大月優さんが亡くなりました。まだ六十代の若さでした。あの日、「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

ベスト一年。まだ度々も電話がかかってきそうな気がする。

仕事で疲れ果てた夜、ふと思い出すのは、大月さんの笑顔。

## 旅びの名手

藤原　長史（ふじわら　ながし）

彼女のひろばとの出会いは、ある日の図書館。「戦争と刻学をそなえた図書館」を掲げる市議会議員選挙に立候補した。

中心となってシンポジウムを企画したり、いっしょに資料を集めたり、大月さんの笑顔。

「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

大月優さんが亡くなりました。まだ六十代の若さでした。あの日、「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

ベスト一年。まだ度々も電話がかかってきそうな気がする。

仕事で疲れ果てた夜、ふと思い出すのは、大月さんの笑顔。

彼女のひろばとの出会いは、ある日の図書館。「戦争と刻学をそなえた図書館」を掲げる市議会議員選挙に立候補した。

中心となってシンポジウムを企画したり、いっしょに資料を集めたり、大月さんの笑顔。

「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

大月優さんが亡くなりました。まだ六十代の若さでした。あの日、「ぬ」蕨駅へ。これはなく、「ぬ」蕨駅へ。駅前の喫茶店で待ち合わせをしていたのです。

ベスト一年。まだ度々も電話がかかってきそうな気がする。

仕事で疲れ果てた夜、ふと思い出すのは、大月さんの笑顔。